

歯学教育認証評価事業
「事業成果報告会」パネルディスカッション
「平成28年度トライアル3大学実施から見てきたもの」
(平成29年2月17日)

歯学教育認証評価トライアルを 受審して

岡山大学 歯学部
宮脇卓也

(岡山大学歯学部 教務委員会 臨床実習実施部会長)

岡山大学が歯学教育認証評価トライアルを 受審することになった背景

- 岡山大学歯学部としての方針であった。
- 平成27年に、CODAの監査委員*による指導を受けており、本事業による認証評価トライアルを受け入れやすい環境にあった。

*Commission on Dental Accreditation (CODA) / U.S. Department of Education 監査委員 駒林 卓 教授 (Takashi KOMABAYASHI, DDS, MDentSc, PhD) (米国ニューイングランド大学 歯学部)

<指摘事項>

- アウトカム基盤型教育(コンピテンシーによる評価)
- 評価の「見える化」(公平・公正な評価)
- 成績不振学生への対応(サポート体制)
- 教育プログラムへの学生の参加

岡山大学が歯学教育認証評価トライアル 現地調査受審までの経過

平成28年7月11日 幹事大学以外での認証評価トライアル募集

平成28年7月14日 岡山大学から応募

平成28年7月28日 決定通知

平成28年8月上旬 書類一式受領

岡山大学内でWG立ち上げ

資料収集・自己評価書作成

平成28年10月10日 教授会で自己評価書の承認

平成28年10月13日 自己評価書提出

平成28年12月09日 自己評価書の追加修正依頼

平成29年 1月 9日 教授会で追加修正について報告

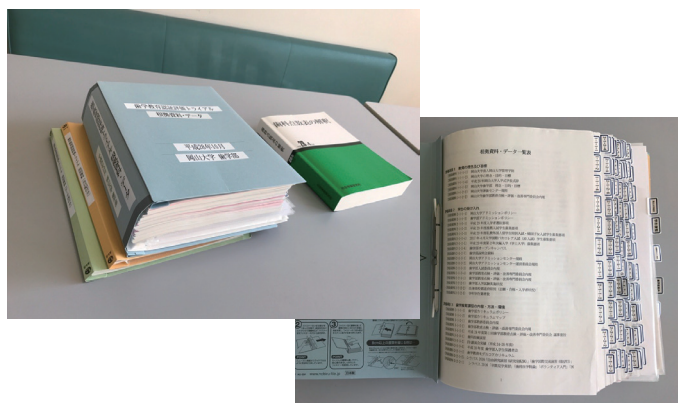
平成29年 1月10日 自己評価書の追加修正提出

平成29年 1月16日、17日 現地調査受審

今回の認証評価トライアルの 問題点・苦勞した点と改善すべき点

- スケジュールが厳しかった。
- 自己評価書の記載方法がわかりにくかった。
 - 記載方法の詳細を明記した要領(マニュアル)等が必要
 - または、自己評価書を公開
- 自己点検・評価書の修正版および再修正版の提出にあたり、提出後に求めている形式ではなかったため、再作成・再提出が必要となった。
 - 修正版及び再修正版についても、記載方法の詳細を明記した要領(マニュアル)等が必要
- 書類の作成が大変だった。
 - 是非、ペーパーレス化
- 学生面談に参加する学生について、授業・実習との調整が少し困難であった。
 - 配慮が必要

歯学教育認証評価トライアルでの 自己評価の根拠資料・データ



受審してみて感じた認証評価の利点

- 自己評価と外部評価によって、当大学での課題が明確になった。
- 課題を教員間で共有できた。
- PDCAサイクルの一環となった。
- 当大学の歯学教育の特徴を認識し、課題も明確にすることができた。
 - 課題解決型プログラム
 - ODAPUS(歯学国際交流演習)
 - クリニカルクラークシップによる診療参加型臨床実習
 - 個性的なカリキュラム
 - 「モノ・コトデザイン演習」「自己表現力演習」「ボランティア入門」「EBMとプロフェッショナリズムへの覚醒」など
- 学生を見直した。

歯学教育認証評価に期待すること

- 標準化＝均一化ではなく、各大学の特徴が見えるような制度にしていきたい。
 - 各大学の特徴を引き出すような評価であれば、各大学が参加しやすい。
- 評価内容(現地調査の内容を含めて)を公開してはどうか(本事業のHPはとても参考になった)。
 - 評価される側だけでなく、評価する側も社会的評価を受け、よりよい制度になることが期待できる
- 教育カリキュラム等に学生・地域が参加できることを推奨してもいいのではないか。

最後に

- 歯学教育認証評価トライアルを受審させていただいたことに感謝申し上げます。
- この度、岡山大学を評価いただいた評価者の皆様に心より感謝いたします。
- 歯学教育認証評価は推進すべき事業であると強く感じました。